学生相談室だより
日々是好日

2014
JUNE

梅雨入りしました

すっかり梅雨らしくなり、紫陽花《アジサイ》の花が美しく咲き誇る季節になりました。小さな花びらが集まって一つの丸い花を形成する梅雨時の代表的な花。多くの家庭の玄関先や庭先を彩り、過ぎゆく人の目を楽しませてくれます。桜やバラのように決して華やかな花ではありませんが、雨に打たれながら健気に咲く姿は、何とも風情があって美しいですね。

紫陽花の一番の魅力は色が変わることでしょう。咲き始めと終わりでは違う表情を見せてくれます。

紫陽花には「七変化」という異名があります。文字通り、開花してから色が変化するところからついたのです。わが国の在来種は、つぼみのころから咲き終わるまでに、淡緑色から白、藍、淡紅色と変わるのでこの名があります。しかし、いささか大げさな表現で、実際は藍色の期間がもっとも長く、そして美しいです。

紫陽花にはアントシアニンという色素が含まれており、これに補助色素という物質やアルミニウムが関わって赤や青の発色をするそうです。土壌によっても色が変わります。アルカリ性土壌では赤っぽく咲き、酸性の土壌では土の中のアルミニュウムが吸収されるために青紫色になるそうです。

あじさいは咲き始めは白いがやがて花の色素アントシアンが地質によって酸性であれば赤にアルカリ性であれば青紫に変わる訳ですね。

（種類によっては白のままもあるから全部がこうなるわけではありません）

紫陽花の歴史は古く、漢字で『紫陽花』と最初に表記したのは中国の唐の詩人だったそうです。日本最古の和歌、万葉集にも季語として使われています。そして江戸時代には蘭学者のシーボルトが長崎で出会った女性、お滝さんの名前を取ってHYDRANGEA OTAKUSA《ヒドランジアオタクサ》と命名しました。紫陽花は時代を問わず国籍を問わず人々を魅了する花と言えるでしょう。

そんな紫陽花ですが、毒があることを、ご存知でしょうか。あの可憐な小さい花びらにも、葉にも根にも毒があるのです。食べるとめまいや吐き気、神経の麻痺が生じて最悪の場合は死に至ってしまいます。実際数年前に、ある飲食店でそれを知らずに料理に使い、食べてしまった客が中毒症状を起こしたという事件が発生しています。触るだけなら何の問題もないのですが、口に入れると胃酸などの酸性物質によって青酸化を引き起こすと考えられています。

美しく咲き誇る季節の花を部屋に飾りたいもの。紫陽花の茎を切ってキッチンに飾る時は、くれぐれも花びらや葉が食品に混じらないよう注意が必要ですね。

5月に開催した第一回てくにゃん短歌祭りでは、たくさんの短歌を寄せていただき、ありがとうございました。【母】というお題で、みなさんそれぞれに違った目線でお母さんへの想いを短歌に込めてくれていました。

多数の素晴らしい作品の中から、三首ご紹介させていただきます。

てくにゃん短歌まつり
お題 【 母 】

★チョコフレークが
好きよと言った母ちゃんと
花咲く庭でお茶する幸せ
チェシャ猫

★母ちゃんと
二人で歩く帰り道
今日は父ちゃん二次会らしいよ
（次回はペンネーム書いてね）
SACHIKO

★繋いだ手
感じる大きさ変わっても
いつ日までもあなたの娘
SACHIKO

第二回てくにゃん短歌祭りは、
6月20日（金）
27日（金）
募集開始します
今回のお題は 【 雨 】です
皆さんの素晴らしい作品をお待ちしています！